

# 緑化センター みながいど

No.18

## モズは鳴きまね名鳥？

9月に入るともう秋。緑化センターでは木のこすえからモズの高鳴き(たかなき)が聞こえてきます。初夏から夏にかけて育ったモズの雛鳥も親と同じ大きさになっています。



夏の間、昆虫を食べていたモズは、餌の少なくなる秋から冬の餌場を確保するため「キイ キイ キイー キイ」とけたたましく鳴いて仲間のモズとテリトリーを認め合います。モズは、「百舌鳥」とも書かれるほど他の野鳥の鳴き声をまねることが上手です。これは他の野鳥に近づくための手段とも考えられますが、よく聞いているとモズの癖「グゼリ」があって聞き分けることが出来ます。

## モズ モズ科

モズは体長約20cmほどで、スズメよりも大きく、太った胴と大きな頭をしている。体は小さくてもくちばしや趾(あしゆび)、首の太さなどはまさに猛禽類で、足の力が強く、獲物を足で押さえ太いくちばしで引き裂くようにして食べる。普段は地上において昆虫などを捕食するが、餌の無くなる冬期にはメジロ、ホオジロ、スズメなどの小鳥が狙われる。

バッタやトカゲ、ネズミ、時には小魚などを捕らえてカラタチやノバラなどの尖った枝の先に突きさして保存食にすることを早贄(はやにえ)と言うが、さした場所の記憶はあまり確かでないようで、春になっても枝先に残されたカエルやトカゲを見ることがある。

積雪地帯では、はやにえの高さでその年の雪の深さがわかると言われている。

秋から冬にかけては山地から平野部に漂行して春を待つ。

文と写真 吉見 良一氏

コーヒーで一息入れませんか  
緑化センター レストハウス